

サーバーワークスがエキサイトした 先進プロジェクト5選 ～三越伊勢丹様と代表大石が Mode2 を語る～

大石 良
株式会社サーバーワークス
代表取締役社長

鈴木 雄介
株式会社IM Digital Lab
取締役



株式会社サーバーワークス 代表取締役社長

おおいし りょう
大石 良

- 1973年 新潟市生まれ
- コンピューターの購入は11歳／SHARP X1
- 中2の時に初めてプログラムが書籍に掲載
- 高校入学記念にX68000を購入
- 大学生の時にパソコン通信開始。本格的にシェアウェアを販売
- 総合商社でインターネットサービスプロバイダー事業に携わる
- 2000年にECのASPを立ち上げるべく起業



Serverworks

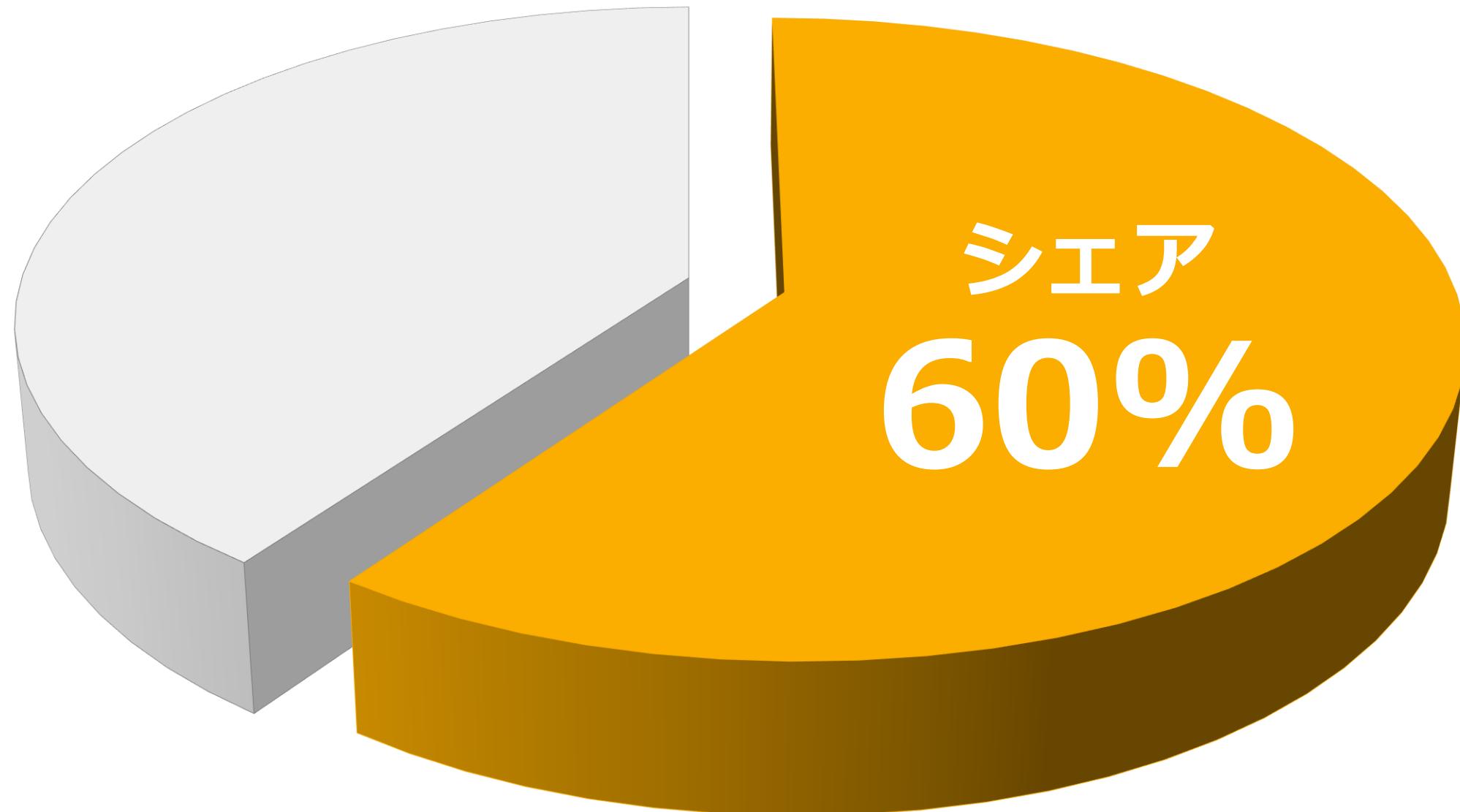
大学向け 合否案内サービス

昔の合格発表



今の合格発表





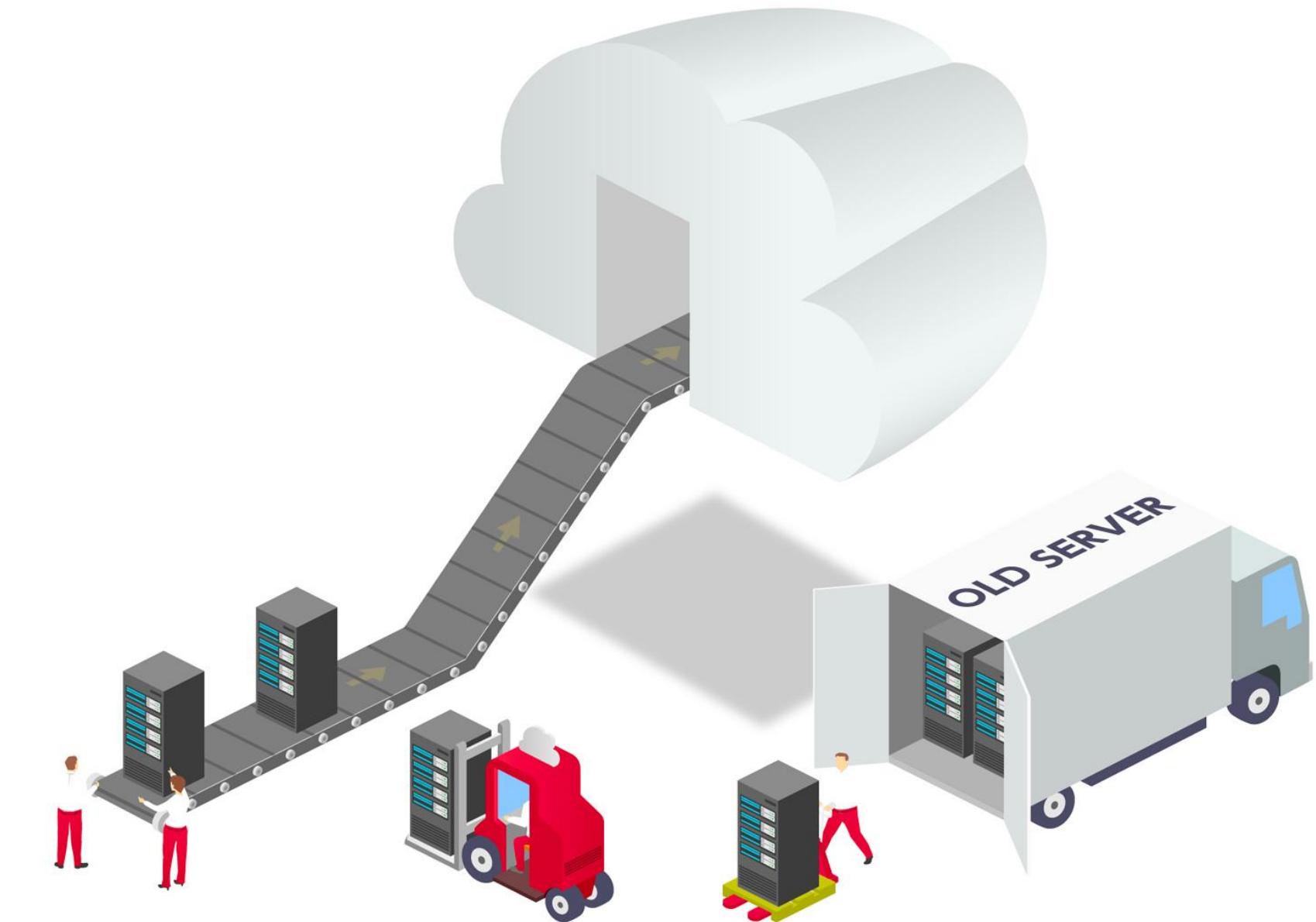
ところが . . .

課題



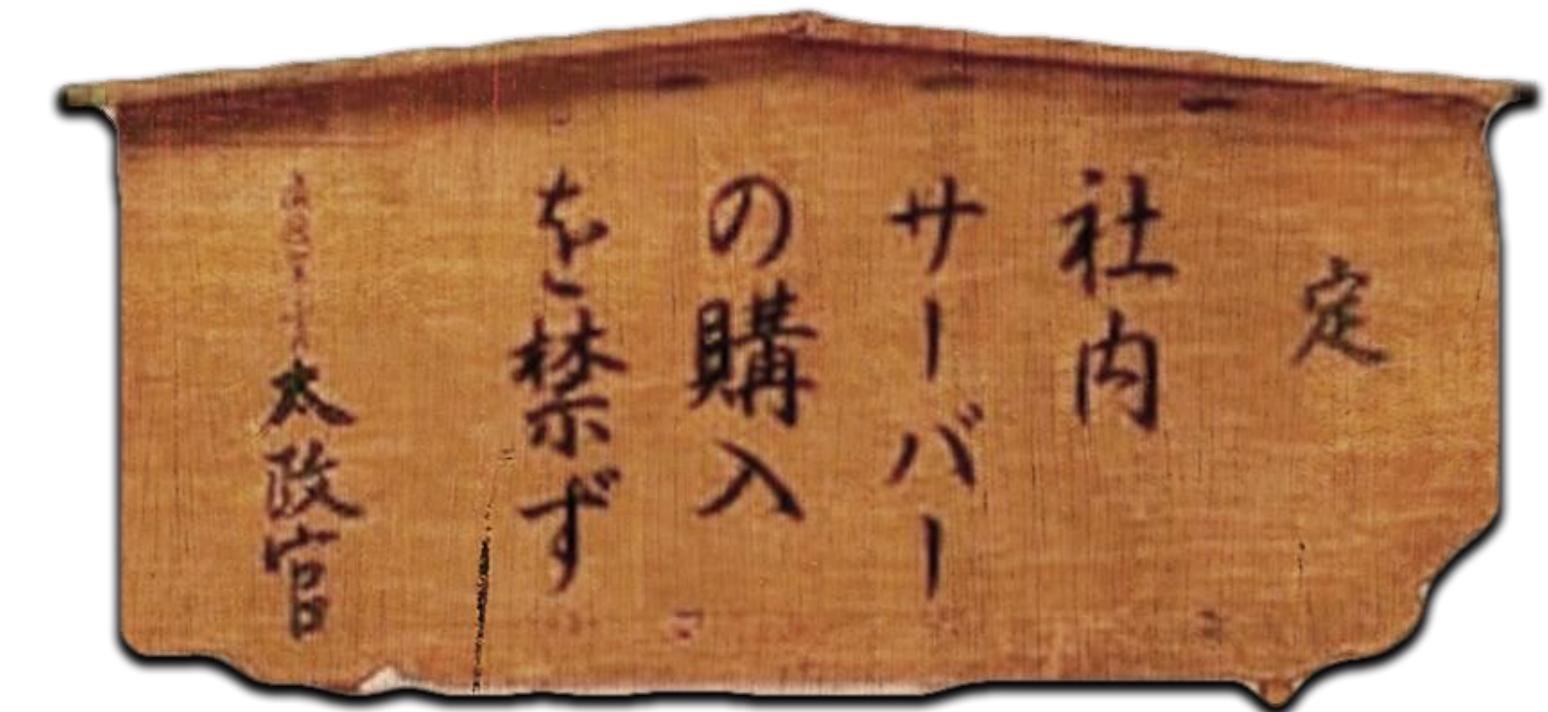
2007年

AWSの テスト利用 を開始



2008年

社内サーバー
購入禁止令



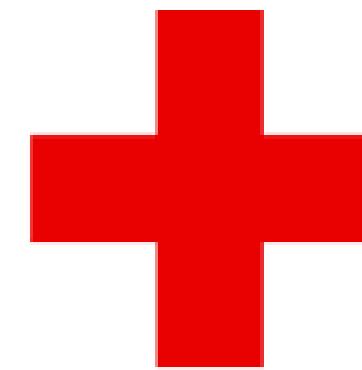
2009年

AWS専業
インテグレーター
に転換

新規案件は

AWSのみ

事例



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東日本大震災当時の様子



日本赤十字にアクセス中。なぜだか、繋がらない。混んでる？？

3月14日 TweetCasterから ☆お気に入り リツイート も返信



「日本赤十字社」にアクセスできない状態になっております

3月12日 webから ☆お気に入り リツイート も返信



日本赤十字社、接続できないわ...。まあ焦らずあとでトライ。お金は腐るもんじゃないし、いつだって必要なんだしね。

3月14日 YouFukuroから ☆お気に入り リツイート も返信



日本赤十字社のページにアクセスできないよー

3月12日 HootSuiteから ☆お気に入り リツイート も返信



日本赤十字社のHPずっとアクセスできないから、いつも利用してるネットバンキングで募金しました。今できる東北地



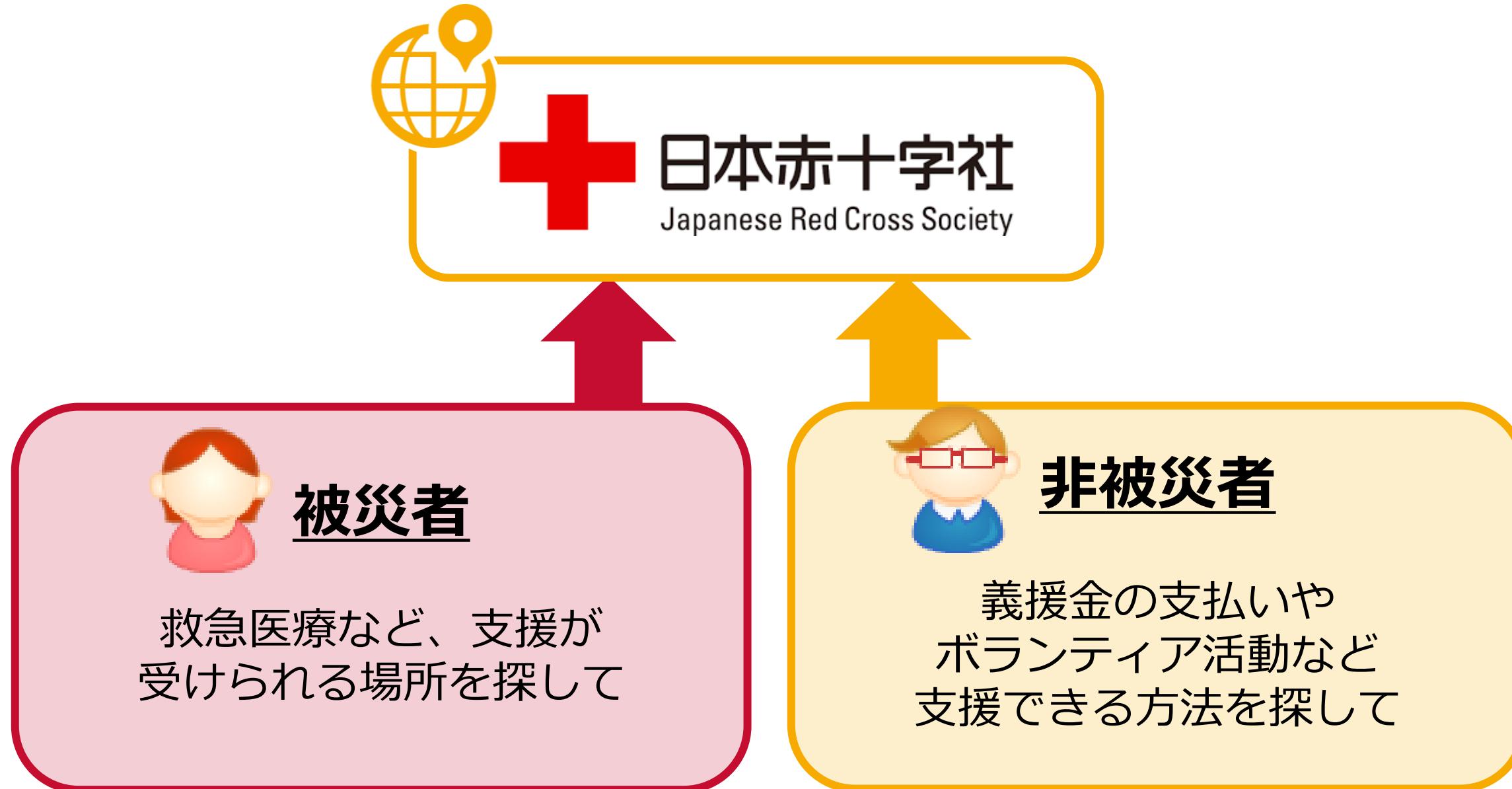
日本赤十字社のサイトが現在つながらない状況です 募金は、@nifty web募金

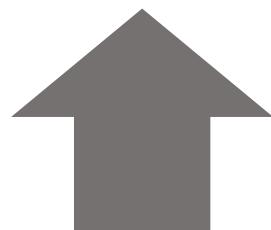


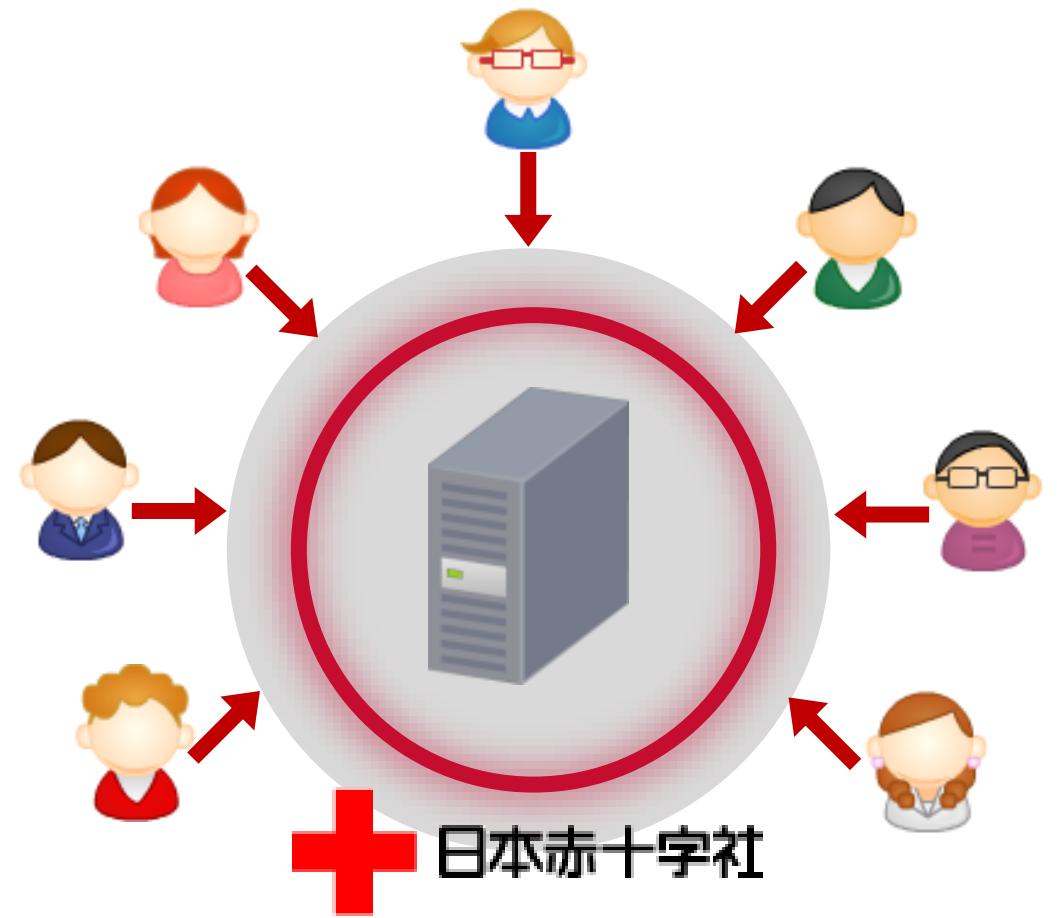
日本赤十字が全然つながらない

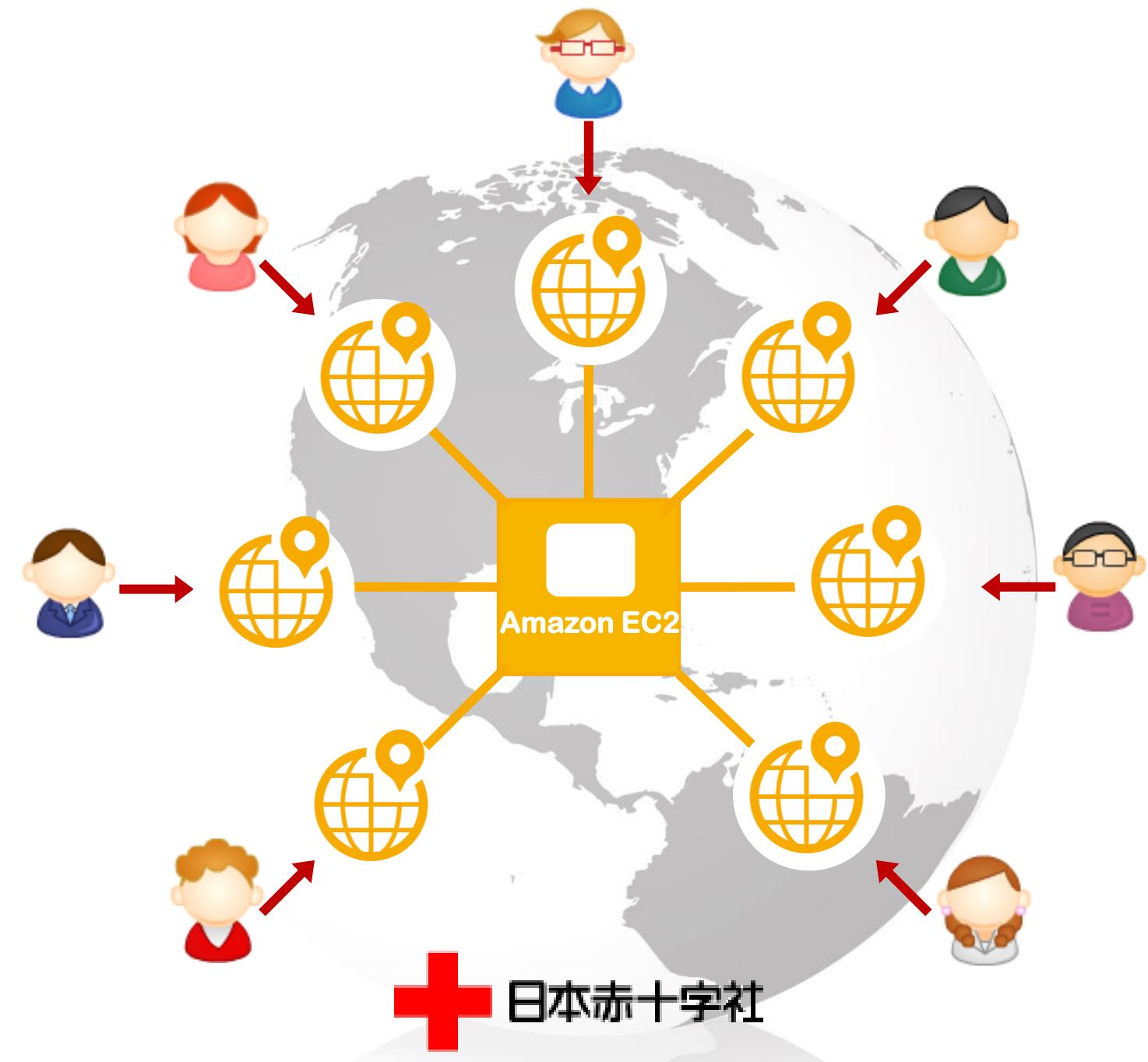
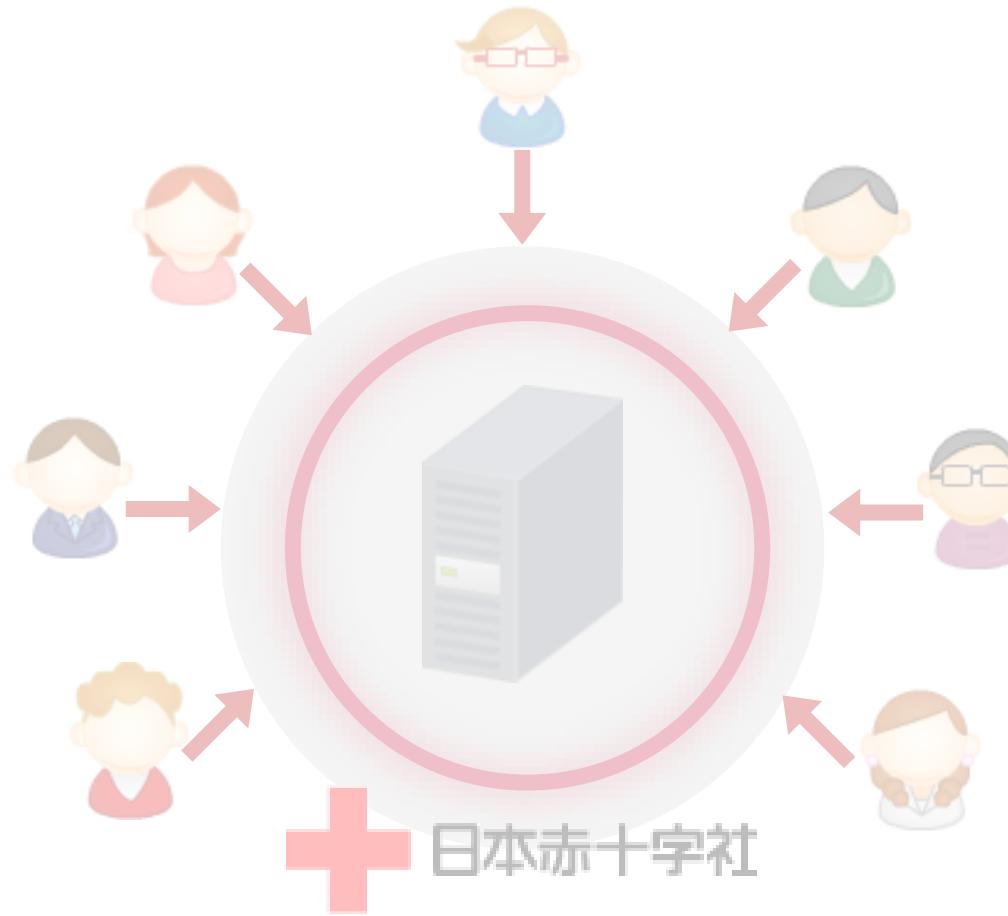
3月13日 webから ☆お気に入り リツイート も返信

サイトダウンの理由

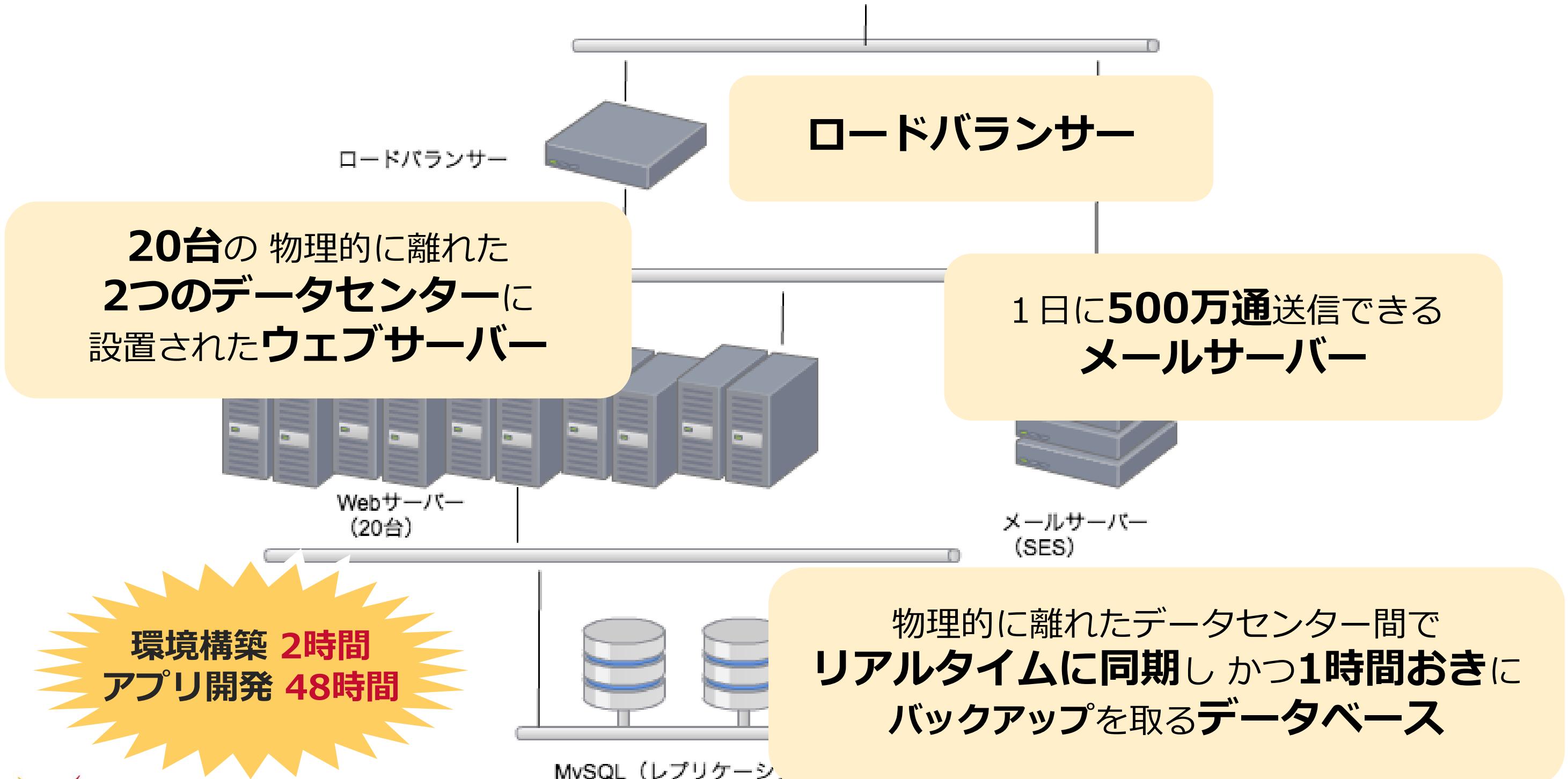








義援金管理システム



義援金 受付開始まで

3月 14日 日本赤十字社 様との打ち合わせ

3月 15日 サイト復旧

3月 17日 義援金 受付開始

事実

震災後の迅速な義援金の募集に一役買ったのは、



日本赤十字社様事例（日経SYSTEMS様 2011年6月号）

ITエンジニアの被災地復興支援

日赤のWebサイトをダウンから救う 被災地に必要な物資は見える化

日本赤十字社のサイトへのアクセス過多に対応、義援金の事前登録も可能に——。これらは、ネットを介したITエンジニアの無償協力で実現したことだ。ITエンジニアの力は復興支援に大いに役立つ。今回の震災での事例を紹介する。

特集1 ITの現場 復興の道しるべ

日本赤十字社（日赤）は震災発生後、アクセスが集中して閲覧できない状況に陥った。1日当たり8000件程度だった閲覧数が震災後には約50万件となり、Webサーバーの処理が追いつかなくなってしまった。

ITサービスを提供するサーバーワークスの羽柴孝氏（営業部 部長）は日本赤十字社が困っていることを3月14日朝に知り、すぐさま行動した。アマゾンデータサービスジャパンやAmazonユーザー会の協力を得て、コンテンツ配信サービス「Amazon CloudFront」を用いた高速なホスティング環境の無償提供を申し出た。日本赤十字社の担当者は14日昼ごろに申し出を受け、16日未明にはWebサ

急場をしのげた日本赤十字社の杉山達哉氏（企画広報室 広報担当）は、「困っている状況でITエンジニアが手助けしてくれて、本当に助かった」と話す。

徹夜をいとわず実質作業で構築

この件をきっかけに別の話も進んだ。日本赤十字社は義援金の受け付け業務を基本的に手作業で行っていたが、大量に寄せられる義援金の申し出に作業が追いつかない状況だった。そこで日本赤十字社の担当者は、羽柴氏に「ネット上で義援金を事前登録できるようなシステムを作れないだろうか」と相談した。羽柴氏はその場で経営層の承諾を得て、「で

きる限り早く、無償で構築する」と返答。ここからサーバーワークスのITエンジニアによる急ピッチのシステム構築が行われる。

羽柴氏は14日夜に要件をヒアリングし、大まかな仕様を決めた。開発は、自宅作業可の指示が出ていたことにも気付かず社していた川口樹氏（開発・運用部 エンジニア）が引き受けた。14日夜から徹夜で作業を続け、夜が明けるころ、複数サーバーで入力を受け付けてデータを保持する部分が完成した。「復興支援につながる緊急作業なのだから、できる限りのことをやろうと思った」と川口氏は語る。

15日朝、開発作業に新坂学氏（開発・運用部 システムエンジニア）と

日本赤十字社のホームページ

義援金事前登録システムを実質構築

人物写真は左からサーバーワークスの中嶋麻衣子氏、羽柴孝氏、川口樹氏、新坂学氏。右上は、高速なコンテンツ配信サービスの利用により、アクセス集中時でも表示可能な日本赤十字社のホームページ。右下は義援金事前登録システムの入力フォーム

復興の道しるべ

人物写真は左から野村総合研究所の福島健吾氏、堀宣男性。右上はTwitterで発信されたツイートを分析してレポート出力した画面。右下はツイート上のポイントをクリックすると表示される該当ツイート

■B どこでどんな物資が求められているか見える化

人物写真は左から野村総合研究所の福島健吾氏、堀宣男性。右上はTwitterで発信されたツイートを分析してレポート出力した画面。右下はツイート上のポイントをクリックすると表示される該当ツイート

中嶋麻衣子氏（営業部）の2人が加わる。新坂氏はマイクロブログに「自分も何かやりたい」とつぶやいていて、それを見た羽柴氏が支援を要請し開発に加わった。川口氏と調整の上、新坂氏は主に管理系の画面や機能を作成した。交通機関の乱れが予測されていたため早めに出来ていた中嶋氏は、出社後に川口氏らの状況を知って手伝いを申し出た。中嶋氏は、システムテストなどを行った。

徹夜明けの川口氏が15日夜に抜け、羽柴氏を含む3人のチームによる開発作業が15日も夜通し続いた。義援金事前登録システムが稼働したのは16日午前11時。直前まで修正作業に追われた新坂氏は、「チームが一丸となって頑張った結果、よい朝を迎えられた」と感じた。また、稼働の直前テストを終えた中嶋氏は「入社2年目の自分でも役に立てたことがうれしい」と思った（図A）。

Twitterの分析システムを開発

こうした、ITエンジニアによる復興支援の例は他にも多数ある。

中嶋麻衣子氏（営業部）の2人が加わる。新坂氏はマイクロブログに「自分も何かやりたい」とつぶやいていて、それを見た羽柴氏が支援を要請し開発に加わった。川口氏と調整の上、新坂氏は主に管理系の画面や機能を作成した。交通機関の乱れが予測されていたため早めに出来ていた中嶋氏は、出社後に川口氏らの状況を知って手伝いを申し出た。中嶋氏は、システムテストなどを行った。

そのことに気付いた野村総合研究所（NRI）の堀宣男氏（ビジネスインテリジェンス事業部 上級システムコンサルタント）と福島健吾氏（同事業部 副主任データアナリスト）は、業務で身に付けたテキストマイニング技術が役立つと考えた。

実際に、Twitterで発信された膨大なツイートから支援要請などの情報を拾い出し、どこでどんな物資が求められているかを見える化するシステムを開発した（図B）。システムは3月下旬に出来上がったが、同社のサイトで公開するとなるとセキュリティなどの社内審査手順を踏む必要がある。堀氏は早期に審査が完了するよう関係者に働きかけた。「夜9時から臨時の審査会を開催してもらうなど、相当な無理を聞き入れてもらったり」

（堀氏）。また、審査に通るまでの間は文書としてダウンロード可能にした。両氏には、各種団体から役立っているとの声が寄せられているという。「Twitter上での反響も大きい。残業時間がちょっと増えたけれども取り組んでよかった」（福島氏）。

このほかにもNRIの真下竜実氏（IT基盤インテグレーション事業本部 主席）が、支援物資の受け手が発するメッセージを支援者である送り手に届けるシステムを構築した。真下氏は、「支援したものが誰に届いたのか、それが役立ったのか、といった被災地からのフィードバックがあれば、支援活動が長続きする」と考えたのだという。また、システムインテグレータであるユース・ティーの平岡由美子氏（クラウドサービス事業部 クラウドサービス推進室）らのチームは、被災地からの避難者を受け入れる自治体のコミュニティを支援するために、セールスフォース・ドットコムの協力を得て、オランティア活動計画の管理システムを構築して無償提供した。

960社を超えるAWS導入実績

(2021年11月末現在 / 順不同)



J.フロントリテイリング



みずほ銀行



Eat Well, Live Well.



IDOM Inc.



NTT SMILE ENERGY

Lancers

Marubeni



YOKOGAWA ♦



集英社



NEVER SAY NEVER
ロート製薬

アテランス

漢検



ベルナ



琉球銀行

ワールドホールディングス

Authorizations and Awards

- AWS Solution Provider (2011)
- AWS Advanced Consulting Partner (2012)
- パートナーアワード (2013)
- AWS MSPプログラム (2014)
- パートナーアワード 事例部門 (2014)
- AWS認定 移行コンピテンシー (2016)
- AWS Customer Success of the Year 2017 – Japan (2017)
- AWS MSP プログラム4.0 (2019)
- AWS Digital Workplace コンピテンシー (2019)

■AWS プレミアティア サービスパートナー
(2014 / 2015 / 2016 / 2017 / 2018 / 2019 / 2020 / 2021)



AWSのパートナー

プレミアパートナーとは

- 2万を超えるAWSのパートナーから認定される**最上位パートナー**
- 世界**126社**、日本で**11社**のみ選出 (2021/11時点)
- 当社は**2014年から継続して**認定



**困難の多い社会状況ではありましたが、
AWSを用いて困難を克服したり、
新しい事業機会を創出するケースが
多々ありました。**

今日は、 そうした中から
「当社が特にエキサイト」 した事例
5選をご紹介します！

大ヒットのチャンスを、
クラウドで確実なものにした事例



東宝株式会社様

大ヒット作品情報公開による高アクセス負荷に対応するサイト作り

課題

高アクセス対策

- 情報公開サイトへのアクセス集中によるレスポンスの低下
- 大ヒット映画の公開に備えるアクセス集中対策の整備

実施

高速コンテンツ配信ネットワーク化

- Amazon CloudFrontの採用
- わずか半月での環境構築

結果

万全なシステム整備の完成

- アクセス集中時の全トラフィックに対応可能なシステムが完成
- クラウド技術内製化の支援をサーバーワークスへ期待



弊社を選定いただいたポイント

顧客対応

顧客へ寄り添った提案

スピード

短納期型PJ経験が豊富

柔軟な対応

内製化を意識した提案

コスト削減

業務プロセス改善

AWS導入支援

WEBサービス事例

エンターテイメント



事例ページ：<https://www.serverworks.co.jp/.html>

※ 本事例で記述している数字および事項は、いずれも事例ページで公開されている情報に基づきます

サービスが順調に伸びたことに伴って増加したコストを
上手にコントロールした事例

dip

ディップ様の取り組み

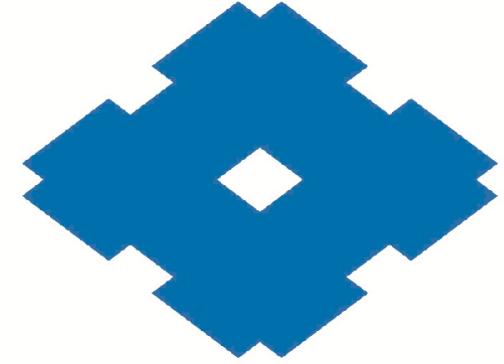
- ▶ 半年で30%のコスト削減を目指しAWS運用最適化プロジェクトを実施

サポート内容

1. リリースを優先したことによるAWSコスト増加を削減
2. 少ないメンバーで効率的なAWS環境の運用実現を支援

- ▶ 運用自動化サービス「Cloud Automator」を利用し運用の効率化
- ▶ 少ない人数で運用から保守までをカバー
- ▶ 半年で50%のコスト削減を実現

**ERPに蓄積された過去データから
新しい洞察を得るための取り組み**



住友重機械

実現したいこと：ユーザーがセルフサービスで必要なデータに安全にアクセスできるようにする
新たなデータ活用基盤の構築（AWS上でのデータレイクの実装）

導入前の課題

1

膨大なデータに対し、
多くのユーザーがストレスなく
活用できる環境がAWSで構築した
データレイクで実現できるのか

2

安全、安心なデータ利用のために
、適切なアクセスコントロールを
実現できるのか

導入サービスをご活用頂いた結果

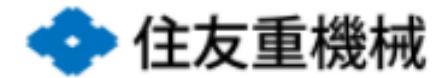
AWS GlueとAmazon Athenaの活用

業務で利用していたcsvをGlueでデータ変換し、
AthenaでSQLで流せる状態にした

Lake Formationの活用

AthenaをLake Formationで制御
部門単位で権限をまとめて管理できることを
Lake Formationに期待している

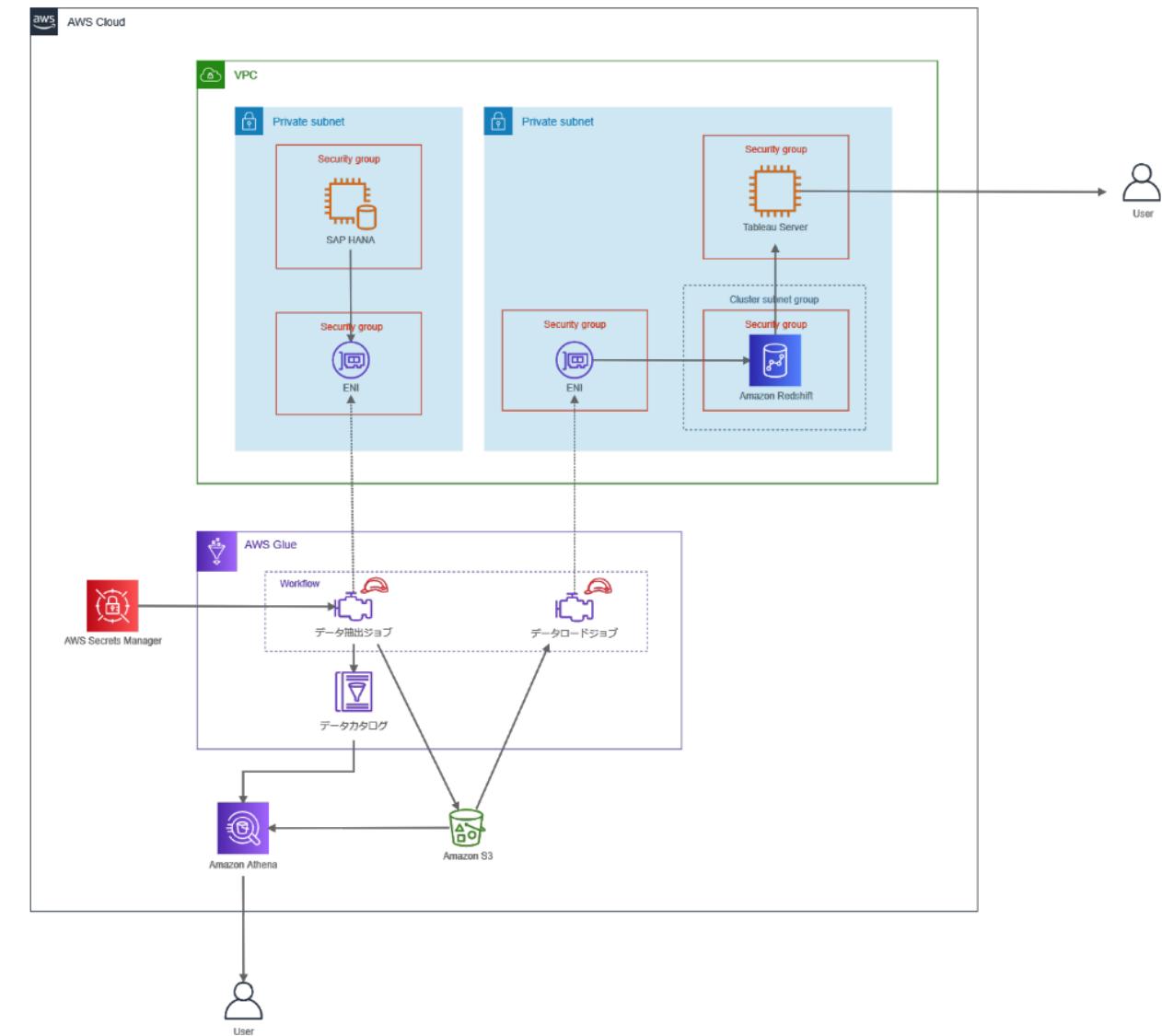
住友重機械工業様(2/2)



データレイクの実装

ご感想

- ・自分たちでもAWSの勉強はしていましたが、AWSのアップデートが速い中でキャッチアップしきれなかった部分を支援いただいたことを有り難く感じています。
- ・サーバーワークスさんの**レスポンスの速さや情報の正確さ**に関してとても良かったと感じています。
- ・**約1億7,000万件**のデータ件数があり、当初は負荷に耐えられず落ちてしまうこともあったが、サーバーワークスさんと丁寧に問題を掘り下げてチューニングを行ったので最終的には**負荷に耐えられる**までになり、大半のシステムに使えるだろうと見通しができました。



**ニューノーマルに対するサービスを
AWSを用いて迅速に市場投入した事例**



つなぐをつくる、つなぐをささえる。

AsahiNet

株式会社朝日ネット様

柔軟性と拡張性のあるAWS環境を構築

IPv6インターネット接続方式を実現する「v6 コネクト」の仕組み作り

課題

既存環境のシステム運用負荷

- オンプレミスの既存環境ではシステムライフサイクル管理に負荷がかかる
- セキュリティ対策のための運用負荷も手間、コストが負担になる

実施

サーバーレス機能環境をAWSで構築

- マネージドサービスの豊富さ、使いやすさ、実績よりAWSを選定
- AWS LambdaやAmazon API Gatewayなどを組み合わせサーバーレス環境を実現

結果

運用負荷の削減を実現

- AWSのマネージドサービスによりセキュリティ対応の負荷や運用コストも最適化された
- 生まれた余裕分のコストを今後のビジネス拡大へ投資できるようになった

◆朝日ネット様が提供するサービスについて

<https://asahi-net.co.jp/>



ASAHIネットは、光接続サービス、モバイル接続サービスなど利用シーンやデバイスに合わせて選べる幅広い接続サービスを提供するインターネット・サービス・プロバイダです。

回線品質の高さと迅速かつ的確なサポートにより、お客様の快適なインターネットライフを支え続けています。



事例ページ：<https://www.serverworks.co.jp/.html>

※本事例で記述している数字および事項は、いずれも事例ページで公開されている情報に基づきます

そして最後に・・・

最もエキサイティングな事例

三越伊勢丹様 Mode2 プロジェクト

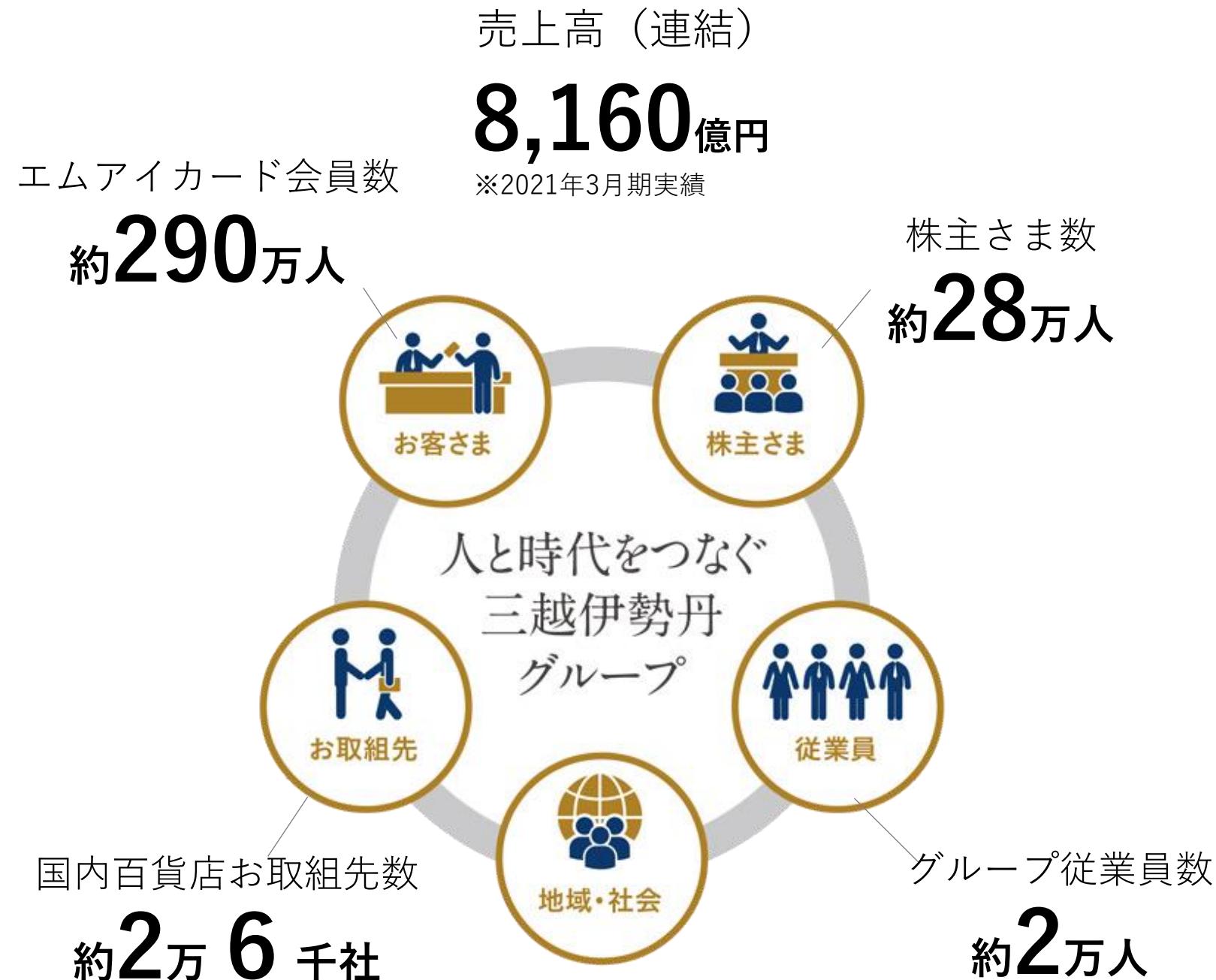
三越伊勢丹のDevOps基盤について

(株) アイムデジタルラボ 取締役

鈴木雄介



三越伊勢丹グループ



IMDLとは



IM Digital Lab

Boost the Classic

(株)アイムデジタルラボ

- 三越伊勢丹グループにおけるDX推進機能子会社
 - 2019年11月設立
 - <https://www.imd-lab.co.jp/>
 - https://note.com/imd_lab

ミッション

仕組みを変えて
お買い物を楽しくする

講演者



鈴木雄介

- (株)アイムデジタルラボ
 - 取締役
- Graat (グラーツ)
 - 正式名称：グロース・アーキテクチャ＆チームス(株)
 - 代表取締役社長
- 日本Javaユーザーグループ
- SNS
 - [@yusuke_arclamp](https://twitter.com/yusuke_arclamp)
 - <http://arclamp.hatenablog.com/>

はじめに

問

DXに向けて開発スピードが
上がらないのはなぜですか？

はじめに

答
調整が多い

DX推進に向けた課題

色々な調整に時間がかかる

- ・実装そのものが遅いことは少ない
- ・どんな調整が遅いのか？
 - ・ビジネス部門との調整
 - ・インフラ部門との調整
 - ・運用部門との調整
- ・他システム部門との調整
- ・品質/法務/経理...

←今日の話の主題

どうやって調整をなくすのか？

調整しないようにすればいい

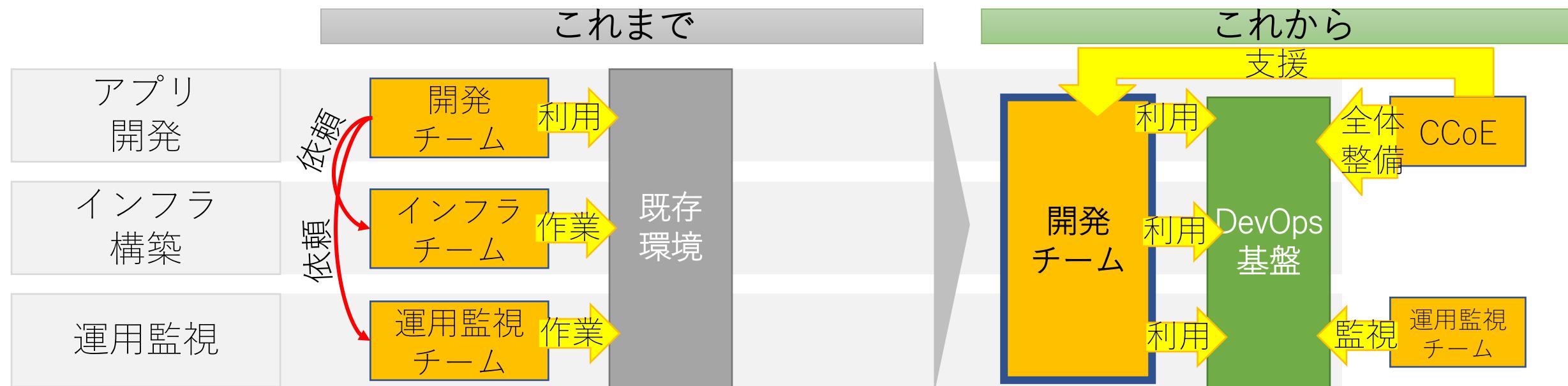
- なくしたいもの
 - インフラ部門との調整
 - サーバの構築、性能変更、台数増減
 - ネットワークのルーティング設定
 - データベースなど、必要な要素の構築や変更など
 - 運用部門との調整
 - リリース作業
 - スケジューラーの設定
 - 運用監視項目の設定など

DevOps基盤

DevOps基盤

インフラ構築/運用作業を全てツール化する

- 開発チームがツールを使ってインフラ構築/運用作業を実施する
 - インフラ/運用チームはツールの整備を行う
 - 基本的なセキュリティは基盤で保証する



2020年

Amazon EC2

利用禁止令



マネージドサービス (PaaS) を利用し、IaaSの利用を禁止。サーバはAmazon ECS、DBはAmazon RDSのみ

2020年

インフラ構築 手作業禁止令



インフラ構築作業はIaCツールを利用し、自動化する。変更管理を可能にし、複数環境構築コストを低減する

2020年

夜間リリース

禁止令



リリースプロセスを自動化し、デプロイを無停止にすることで日中リリースを前提にする

DevOps基盤

ガイドラインとして策定

- 開発チームが参照しながら作業を行なっていく
 - AWS利用ガイドライン
 - 運用設計ガイドライン
 - CI/CDガイドライン
- サーバーワークス様の支援で作成 & 改善中
 - ガイドラインの販売もしています
 - 問い合わせ先：（株）三越伊勢丹システムソリューションズ contact@ims-sol.co.jp

ガイドライン目次

AWSガイドライン

- ・アカウント・ユーザー管理方針
- ・ネットワーク設計方針
- ・セキュリティ基本方針
- ・バックアップ設計方針
- ・システム可用性設計方針
- ・メンテナンス環境設計
- ・命名規則
- ・タグ設計
- ・インフラ構築自動化
- ・インスタンス夜間停止
- ・ガイドライン非準拠の自動検知
- ・環境変数管理
- ・利用サービス一覧

運用設計ガイドライン

- ・運用の概要設計
 - ・本番作業フロー
 - ・運用タスクリスト
- ・運用コスト削減
- ・アップデート方針
- ・監視設計
- ・権限付与システム

CI/CDガイドライン

- ・CI/CDパイプライン
 - ・CI/CD基本方針
 - ・パイプラインの構築

※上記を前提とした開発チーム向けの具体的な作業手順書も整備

DevOps基盤

効率が16倍になりました

- ・開発スピードが4倍
 - ・1年かけていた開発が3ヶ月に
 - ・インフラ構築や運用設計が柔軟に
- ・保守工数が1/4
 - ・自動リリースにより手順書の削減
 - ・インフラや運用の変更が容易に



DevOps基盤

その上で動いているもの

- ・さまざまDXサービス
- ・店頭向けデジタルサービス、各種アプリのバックエンド、物流サービスなど
- ・さまざま基幹システムの一部
 - ・基幹システムの一部機能をクラウドネイティブに作り替えて移植し、段階的に切り替えていく
 - ・ストラングラーパターンによる基幹モダナイズ

まとめ

まとめ

DX推進のためにDevOps基盤を構築

- 開発チームがインフラ/運用作業をすると効率的
 - そのためにインフラ・運用作業をツール化する
 - インフラ・運用チームはツール整備をする
- ツールにはAWSなど既存サービスを活用
 - マネージドサービスだけを採用し、自動化を推進する
 - 開発チーム向けに各種ガイドラインを整備
- 効率が16倍になった
 - DXだけなく、基幹システムのモダナイズも推進中

さいごに

実現に向けた覚悟

- 既存環境とは「考え方」を分ける
 - セキュリティ/ガバナンスもクラウドネイティブに
 - 既存環境とネットワーク接続は可能
- 全体を1つのシステムと捉える
 - システム間連携が増えていくなかで個別システム視点ではなく全体視点で管理していく
- 失敗に学び、改善する
 - 試行錯誤を続けていくことでメンバーも成長していく

取り組みの詳細はブログで公開中：https://note.com/imd_lab/

**これらを実現するために
重要なものが**

DX時代の
伴走パートナー
“シェルパ”



DXやクラウドといった新しいアイディアを
社内に浸透させ、実行に移すためには
様々な課題が山積

本当に
辿り着けるのか…



他の業務もある
のに・・
新しいシステム
は嫌だ

課題が根深くて
使える人が
限定される

課題

お客様に
価値を伝えるの
が難しい 不安

課題

もやもや

コスト

もやもや

もやもや

もやもや もやもや

もやもや

もやもや

だからこそ
困難な登山の成功には
経験豊富なパートナー
が重要に！

景色を見るのが
楽しみです

登山のプロ

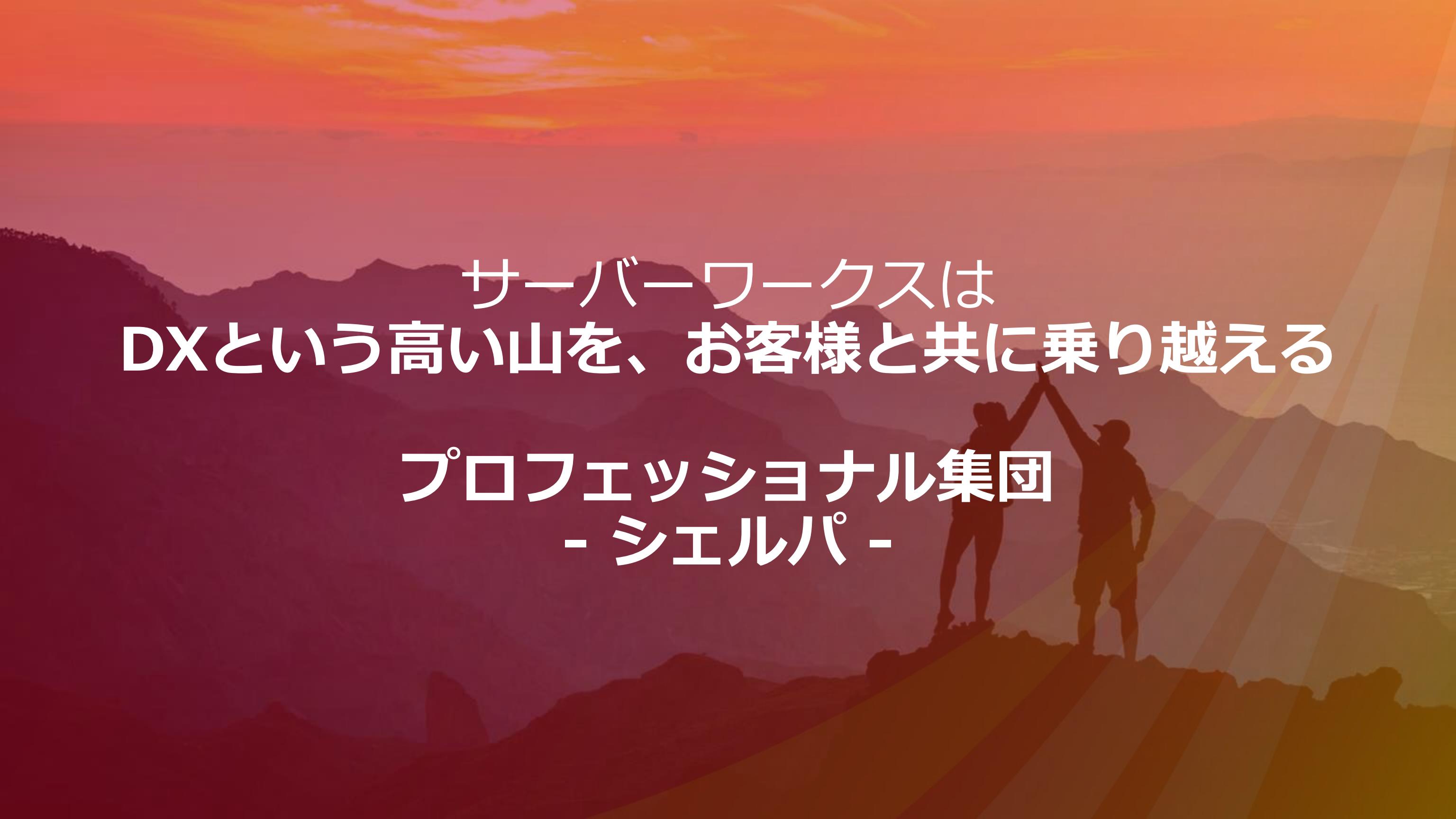
あと少しですね！

新しい価値が
次を生み出して
優秀な新入社員
社内のモチベー
新規顧客がいる
倍増した
新たなチャンス
が巡ってきた
ワークフローが
シンプルに
広報活動が楽に
なった
最新の技術を学べる
企画の幅が広がる



お客様と
コミュニケーションがとれ
すぐにチャレンジ
する

残りの課題
残りの課題
残りの課題
残りの課題



サーバーワークスは
DXという高い山を、お客様と共に乗り越える

プロフェッショナル集団
- シエルバ -

まとめ

まとめ

- ・ 本日ご紹介の通り、事業環境が激変する中でも、AWSを用いてアジャリティを高めることで、ビジネスの成功に繋げる事例は多数
- ・ いざという時に迅速に動くためにも、平常時からクラウドへの適用を進めておく必要あり。今回ご紹介したお客様は、**平常時からクラウドを活用していたからこそ緊急時の対応も容易に**
- ・ 厳しい事業環境下が続く現在だからこそ、クラウド活用のリスクコントロールが重要に。失敗しないクラウド活用を達成するためにもサーバーワークスの様な伴走パートナーとの協業を！

今日のお話が、DXを考える上で
ヒントになれば幸いです

Thank you!

大石 良

株式会社サーバーワークス
代表取締役社長

鈴木 雄介

株式会社IM Digital Lab
取締役

本セッション資料や記載内容については一切の転用を禁止しております



© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.